大阪の未来を守るために―

キーワードは「改革」

私は選挙を通して枚方市内をくまなく回り、市民の皆さんの声をお聞きし、市政に対する不満が渦巻いている現実を目の当たりにしました。それだけに再スタートに際し「府政を通して枚方の未来を守る」との思いを強くしています。

過去2回の府議選を私は自民党公認で戦いました。その後、平成7年に市長選に立候補するに当たり、政党政派にとらわれず改革を進めるため自民党を離党。無党派の市長として市政改革を断行し、財政再建を果たしてきました。

今回も無所属で立候補しましたが、私の改革姿勢を評価して下さった大阪維新の会から推薦をいただきました。不断なる改革が私の政治信条であり、行動をともにする議員仲間のキーワードは「改革」です。そして、大阪維新の会が進める「身を切る改革」は私の方向と共鳴するものです。

そうした経過と、5人以上の会派（議員団）に所属しなければ議会活動が制約される状況から、政党は無所属のまま「大阪維新の会大阪府議会議員団」に加わりました。今後、志を同じくする府議会、枚方市議会の皆さんと力を合わせて改革を進めます。

大阪の成長戦略を実現

5月17日に実施された大阪都構想の賛否を問う住民投票は、0.8%の僅差で否決となりました。東京に比べて閉塞状況にある大阪を変える最大のチャンスと、その可能性に期待を寄せていただけに非常に残念です。

長年行政に携わってきた私は、大阪府と大阪市のいがみ合いや縄張り争いにうんざりしたことが何度もあります。それだけに、二重行政を解消してコスト削減を図ることや巨大な大阪市役所を再編して既得権益を見直すこと、大阪の司令塔を一つにまとめ未来を見据えたまちづくりを推進することなどは大変重要な課題だと考えています。

都構想の議論の中で明らかになったように、少子高齢・人口減少社会を迎え、現在の行政システムのままでは、この先確実に限界が見えています。政治の役割として、二重行政を解消し大阪の成長戦略を実現することで、大阪の未来を守る責任を果たしていかなければなりません。

22年ぶりの大阪府議会

私にとって22年ぶりの府議会となった5月定例会が5月28日～6月11日の日程で開催されました。議長に今井豊議員（維新）、副議長に吉田利幸議員（自民）が選出され、監査委員に西野修平議員（維新）が就任。8つの常任委員会の正副委員長などが決まりました。

私の所属は健康福祉常任委員会です。高齢者・障がい者・児童の福祉、少子化問題、子育て、保健医療、食の安全、衛生、自立支援など、福祉部と健康医療部にまたがる施策の推進に関する事項が担当です。高齢化が進む中で大阪府の施策の充実を図るとともに、府と連携して、かつて「福祉の枚方」といわれた枚方市の福祉や健康施策への取り組みが進むよう力を注ぎます。

その他に私は、大阪府環境審議会委員、大阪府議会日露友好親善議員連盟会長、議員団政調会健康福祉部会長に就任しました。

議案審議では、「大阪都構想」の住民投票の結果を受けて今後の広域行政の在り方について審議し大阪府と大阪・堺両市の二重行政の解消をめざす「大阪戦略調整会議」（大阪会議）を設置する条例案が可決されました。これまでの経過から難航が予想されますが、知事、両市長及び各議会の代表計30人が大阪の広域課題について協議し、大阪発展に向けた統一戦略をまとめる予定です。

また、7月21日に臨時議会が開かれ、任期満了の小河保之副知事に代わり、竹内廣行氏が副知事に就任しました。

9月定例会は9月29日に開催されます。

‥未来通信‥‥

平成27年8月発行 1

発行元 未来を守る会
〒573-0022 枚方市宮之阪1丁目22-8-201
☎072-808-6128 FAX 072-808-6138

大阪府議会議員

なかつか ひろし 中司宏さん

の特集です。

「枚方の未来を守るため 初心に返って働きます」

中司宏さんが、これからの政治にかける思いを次のように語りました。

※2、3面に中司さんの枚方市政に対する考え、4面に府政報告を掲載しています。

「愛する枚方のためにもう一度働くチャンスを与えていただき、ありがとうございました。

生まれ育ったこのまちの未来を守るため、今なすべきことを信念を持って進めていく―。心の底から湧きあがる熱い想いを胸に、大阪府議会議員として再スタートを切ることができました。府政の立場から枚方そして大阪の未来を守るため、必要な改革を全力で進めてまいります。

早々に校区コミュニティの役員さんとの意見交換の場を持ち、防犯灯の設置や道路の維持補修など身近なことをはじめ様々な問題の解決に奔走し、府と枚方市のパイプ役として働かせていただいています。

冤罪と闘った悔しい気持ちをバネに、臥薪嘗胆の8年の辛い日々を糧に、枚方市長として培った経験をフルに活かし、閉塞状況にある枚方に風穴を開けて市政転換の大きなうねりを起こすため、初心に返って頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。」 ※冤罪に関する詳細、重点政策などにつきましては、中司宏オフィシャルウェブサイトをご参照下さい。

中司宏 なかつか ひろし プロフィール

▶昭和31年3月
枚方市に生まれる
枚方市立殿山第二小学校、枚方市立第三中学校、大阪府立寝屋川高等学校、早稲田大学第一文学部を卒業

▶昭和54年4月
産経新聞社に入社
京都支局を経て東京本社政治部記者 中曽根首相番、自民党(田中派・竹下派)担当

▶昭和62年4月
大阪府議会議員（自民党公認）連続2期当選
文教委員長、自民党枚方市支部長などを歴任

▶平成7年4月
枚方市長に初当選(39歳)3期12年間枚方市長として市政の発展につとめる
この間、大阪府市長会会長(2期)、全国青年市長会会長、環境自治体サミット共同代表、道路整備促進期成同盟会全国協議会会長などを歴任

▶平成21年12月
柏原市まちづくり戦略会議議長として事業仕分けなどを担当（平成22年11月まで）

▶平成27年4月
大阪府議会議員当選（3期目）
健康福祉常任委員会委員

info@nakatsukahiroshi.jp
http://nakatsukahiroshi.jp 中司宏 検索

選ばれるまち「枚方」へ魅力づくりを

市民との協働が市民満足度を上げる

私の長年の友人である西川太一郎・東京都荒川区長は「区政は区民を幸せにするシステム」と公言し、区政運営にその考えを貫いています。私も市長として市民の幸福度＝市民満足度をいかに上げるかに心を砕き、マニフェストとして数値化を図り、達成期限を決めて行政スピードを迅速にし、達成度を市民の皆さんに審査してもらう検証評価大会を開き、市政に対する意見を求めました。

しかし、冤罪事件のため途中で市政を去ることになり、市民の皆さんと約束したマニフェストの実行を果たせず本当に残念です。

私は常々、まちづくりで大切なことは市の施策を一方的に市民に押し付けるのではなく、行政と市民とが「協働」し、「自助」「共助」の芽を育みながら施策を進めていくことだと考えています。行政と市民とが施策の課題を共有し、解決方法を模索しながら市民参加で施策を作り上げていくのは時間と手間がかかりますが、満足度の高い市民サービスを提供するためには大切なことなのです。

美術館の混乱は市民参加プロセスの軽視から

美術館建設をめぐる市政の混乱は、市民参加のプロセスが抜け落ちていたことにあります。当初市の計画になかった美術館の整備を進めるためには、きちんと説明責任を果たさなければなりません。しかし市長は、市民に十分な情報提供をしないまま市議会に提案するという乱暴な手法をとり、その後も地域住民の意見を聞こうとしなかったため、激しい反対運動に発展したのです。

本来ならば、住民が納得するまで何度でも話し合う機会を設け、対話を進める中で施策を進めていくべきです。私は、いわゆる迷惑施設である火葬場や清掃工場の建設にあたり何度も地元に足を運び、反対市民から罵声を浴びせられながらもしっかり対話を進め、最期は計画に納得していただきました。

美術館問題の混乱は、明らかに市民参加のプロセスの軽視にあります。市議会で「市民の妨害で建設が進まない」と、責任を市民に転嫁する市側の答弁には驚きました。市民の声を聞かない市政運営に付いていけないという声が大きくなっています。

将来ビジョンの欠如が招いた市政の衰退

地方分権の時代を見据え、地域のことは地域で決められるよう国や府からの権限委譲を進めて行くことが大切です。この目玉として私が取り組んだのが、より自治権の高い中核市への移行でした。私は元々、寝屋川、交野との3市合併による政令指定都市への移行を考え、枚方市議会では可決されたのですが、寝屋川・交野両市議会で否決され実現できませんでした。そこで、まず中核市への移行に目標を転換し、マニフェストの最重点に掲げて準備を進めました。

しかし、後を継いだ現市長は、中核市移行は「必要なし」と一旦破棄。再検討の末、結局昨年4月に中核市になりましたが、この間のブレのため結果的に5年遅れとなりました。しかも、中核市として明確なビジョンもないまま府から保健所などの仕事が権限委譲されたため、例えば医療行政の充実、食育の向上など市民に近い保健所行政の利点が十分活用できていないのが現状です。

未来のビジョンや政策理念の欠如により枚方の魅力が低下し、人口流出につながっています。

子育てと教育が次世代を拓くカギ

枚方市では、平成21年度以降、保育所に入れない待機児童がほぼ毎年、年度当初に発生し、年度途中の待機児童数は100人以上にも及んでいます。

一方、平成26年の全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）で、枚方市は小学校、中学校の各教科、区分で全国平均正答率を下回る項目が多く、また平成19年と比較して平均正答率が府内でも上位から大きく下降したことから、大阪府の重点対策自治体に指定されました。6つの大学があり「教育文化都市」というブランドを発信しているにもかかわらず大変残念な結果です。

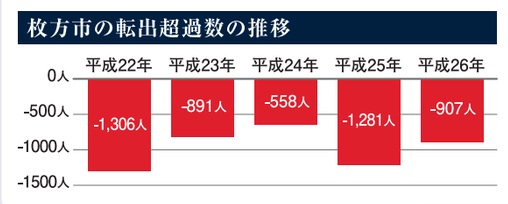
中学校給食にしても、府が補助制度を創設したから実施するという考えで、子どもや保護者の考えや教育的見地よりもコスト面の理由から、全員給食ではなく選択制の給食導入が決定されました。そこには中学校給食に対する理念が見えません。市として「食育」というはっきりとした理念を示した上で取り組んでこそ、給食を実施する価値や効果があると私は考えます。

都市機能と魅力を高め人口流出に歯止めを

人口減少社会を迎える中で、いかに定住人口を確保して税収を安定させるかは、自治体が生き残るためのカギと考えます。しかし、現実には枚方市への転入者よりも転出者が多い「転出超過」の傾向が何年も続いています。超過数は府内で2年連続ワースト2位、一昨年は全国でも8位となりました。しかも、その半数以上が近郊都市への転出で、枚方市はいわゆる「都市間競争」に負けていることがデータから見て取れます。

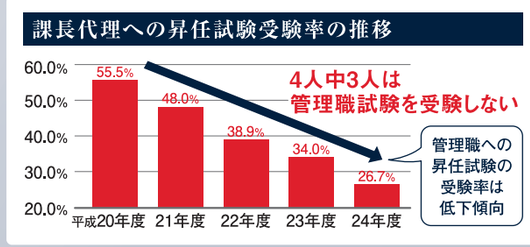
この現実を前に、民間活力の導入で40万都市の玄関口に相応しい駅前整備など都市の魅力を創出し、子育て支援の充実や教育環境の向上など定住に繋がる施策を早急に講じる必要がありますが、何ら具体的に打ち出されていません。

市政トップの現状認識や危機管理の欠如から、高槻市をはじめ近郊市に大きく遅れを取っているのです。北河内をリードする都市へと、今ここで魅力づくりに迅速に動かなければ、枚方市の人口減少は確実に加速していくでしょう。



職員のパワーを引き出し住民サービス向上へ

現在の枚方市の行革効果の大部分は、私の市長時代に行った職員数の削減による人件費抑制によるものです。もちろん職員を削減すれば一人あたりの仕事量は増えます。そこで、「民間委託」「事業の見直し」「業務の効率化」などの対策を講じる一方、職員一人ひとりの育成や意欲の喚起も大切です。

しかし、管理職の上司より部下の方が年収が高い年功序列の給与制度を是正し、仕事に励む職員を正当に評価する人事制度を確立しなければ、責任ある仕事に取り組んだり、管理職に就こうとするヤル気のある職員が少なくなってしまいます。実際に管理職への昇格試験の受験率は年々低下しています。

市役所には優秀な職員がたくさんいます。職員のパワーやモチベーションは施策の遂行に大きく左右します。市民の満足度を高めるため頑張った職員が報われる制度を導入することで、職員の士気もあがり、ひいては住民サービスの向上につながると考えます。